



江富久雄◎こども写真展

8月31日(金)～9月2日(日)

会場：北島町立図書館2階 ギャラリー 入場無料
午前10時から午後5時まで

主催：江富久雄こども写真展実行委員会(☎088-698-6888)

夏休みファミリーコンサート 「音楽の玉手箱」

9月2日(日) 午後2時～

会場：図書館3階 多目的ホール

入場料：前売/1,500円 当日/1,700円

演奏予定曲目●「エリーゼのために」(ベートーヴェン)、
「スコットランド・ソナタ」(メンデルスゾーン) ほか

出演：明口奈央、新居満里奈、林美甫、渡邊礼華、
吉田一喜、森光平、桜田悟、柴崎紘生、森亮平

主催：小高音楽研究所(☎090-8868-9601)

スマイル!元気!健康!フェア特別講演 寝たきりにならないための 生活習慣

～脳卒中の予防と血圧・血糖の管理～

10月7日(日) 午後1時(12時半開場)

会場：図書館3階 多目的ホール 入場無料

講師：河野光弘(このクリニック(藍住町)院長)

主催：スマイル調剤薬局(☎088-677-5388)

■あわせて、2階ギャラリーで無料測定・お薬相談・食事相談、子ども調剤体験(要事前予約)等を講演会開場時間から午後4時まで開催。来場者先着300名までには粗品あり。

日本民謡朝啄会

梅若啄志穂支部25周年記念大会

10月14日(日) 正午～

会場：図書館3階 多目的ホール 入場無料

出演：梅若朝啄(キングレコード専属・分家家元)

進藤聖子(二代目梅若朝啄) ほか

主催：梅若啄志穂支部(事務局 中川 090-4332-7187)

■ご来場の方には記念品及び紅白もちを進呈。

人形劇団べんべろべえ公演

10月25日(木) 午前11時～

会場：北島町立図書館2階 ハイビジョン室 入場無料

対象：就学前の子ども 赤ちゃんも大歓迎。

主催：人形劇団べんべろべえ(兵頭☎088-698-6652)

第22回トラディショナル・ナイト決定!

ケルトの調べ ノース・アイル・タウン スリーラビリンス演奏会

10月28日(日) 午後2時半～

会場：北島町立図書館3階 多目的ホール

入場料：前売/大学・一般 2,000円 小中高 1,500円

当日/大学・一般 2,500円 小中高 2,000円

演奏予定曲目●「ノース・アイル・タウン」、「三羽の鳥」、
「フォギー・ドゥー」「ラスモア」 ほか

出演：スリーラビリンス【坂上真清(ケルティック・ハーブ)、
みどり(フィドル)、藤沢祥衣(アコーディオン)】

主催：北島トラディショナルナイト実行委員会

■日本屈指のケルティック・ハーブ奏者坂上真清(さかうえ・ますみ)氏が新グループを率いて4度目の創世ホール登場。坂上氏が、北島町にオマージュを捧げて作曲・演奏した話題のCD「ノース・アイル・タウン(=北の島の町)」発売記念演奏会です。ご注目ください。



■「七人の刑事／ふたりだけの銀座」(佐々木守脚本、今野勉演出)は次のような内容です。練馬の少年院を脱走した8人のティーンエイジャーがサラリーマンを襲って強盗事件を起こし、どうも千葉県の方に逃げたらしいと。それで7人の刑事たちが手分けして探しに行くと、千葉県内の漁師町で一部の脱走青年たちが、見つかります。

■逃亡犯の内の4人が、銀座で遊んでいるようないわゆるみゆき族の若者3人の車に乗っけてもらって、海でも見に行こうよと言って7人で漁師町に行く。海辺でギターを弾いたり、ツイストを踊ったり。そこに寺田農(てらだ・みのり)演じるセイジという漁師の若者がいた。彼は、亡くなった父の跡を継ぎ、貧しいながらも自分の船を持って、夢をもって漁業をやっている生真面目な漁師です。その恋人が、みどりという吉田日出子さんが演じた純朴な女性で、セイジが漁に出て戻ってくると、手を振って嬉しそうに出迎える。両親を亡くして、許嫁(いいなずけ)のセイジだけを見つめていることがよく分かるわけです。

■刑事たちは、若者が海岸で騒いでいるもんですから、脱走した犯人だと判断して、捕まえます。急襲しぶんなくって逮捕しちゃうわけですね。ところが4人は本当の犯人だったわけですが、3人は、単に東京から海を見に行こうと陽気にやってきた今どきの若者だったわけですよ。まきぞえですね。

■それで刑事たちは、3人は犯人たちじゃないというのが分かって「許してくれよ」と謝ります。当然、殴られて誤認逮捕されそうになった3人の青年たちはブスッとふてくされてるんですね。

■その騒動の横で、帰って来た漁師の寺田農と出迎えた許嫁の吉田日出子の若いカップルが、黙々と漁の網を直したりしている。この時、背景に「投網漁(とあみりょう) 反対」という零細漁師たちが掲げたスローガンの垂れ幕なんかも見えるんですね。

■別に2人は、仲睦まじくしているわけではないんですが、その姿を見て、間違われて殴られた3人の若者は、ムカッと来るわけですね。自分たちは、単に遊びに来ただけなのに犯人と間違えられたと。それで、3人の若者たちは、要するに「あの子、連れてっちゃおうか」といって、突然セイジ(寺田農)とみどり(吉田日出子)を襲って、網でぐるぐる縛ってしまっ、みどりさんを連れて東京に行っちゃうわけですよ。俺たちだって、犯人と間違われて殴られたんだから、お前も同じ目に合えという屁理屈を言って3人の若者はセイジを殴るんですね。

■それで結局セイジは、追跡を始めるのですが、東京といたってどこに行けばいいか分からない。それで警視庁を訪ねて、千葉で会った刑事たちに「俺の許嫁が誘拐されたんだ。探してくれよ。あんたたちのせいだぞ」と言うわけです。刑事たちもびっくりして、手掛かりはどうするのかということになった。車のナンバーは控えていて、貨物用のトラックだったということは分かっていたので、そこから探って、連中は銀座に遊びに行きたいよという情報を得ます。原宿の隠れバーのようなところで、3人の

遊び仲間から情報を得たわけです。

■結局1日かけて、銀座に来るかも知れないみどりさんと、彼女をさらった男の子たちを見つけようとするわけですね。そこがオールロケーションで描かれています。

■刑事たちは、見つかるかどうかは分からないと。仕事ですから。プロの警察官なのでクールな感じなんですね。その横で、セイジはどんどん苛立っていきわけですね。要するに、お前たちのせいでみどりは連れ去られたのに、なんでこいつら大人たちは本気になって探してくれないんだ、と。

■そうした中で、あるデパートでついに、連れ去った野村君という男の子とみどりが二人でいるのをセイジは見つけるんですね。ところが、みどりは楽しそうなんです。田舎の漁師町でたぶん生まれた時からずっと育て、銀座なんか来たこともない。それが銀座で、銀ブラをしてとてもうれしそうにしている。セイジは、ぎょっとし、どうなってるんだと当惑します。そして衝動的な怒りで、デパートの売り場でナイフを買う。みどりを連れ去った男を刺すためですよ。

■結局、それで地下道の中でついに全員が集まって、セイジが「戻ろうよ」といって、みどりは「戻らない」と返答するんですね。東京に残って、野村君が紹介してくれた運送会社のOLになる、事務員になる、と。

■これに対してセイジがみどりに「いくら(月給を)もらえるんだ」と聞くと「1万いくら」だと。セイジは鼻で笑って、「俺だって最低5万円は漁でかせいでるんだ。もっと大きくなるよ」みたいなことをいいます。でも、みどりは「いらない。これは誘拐じゃない。私、ここにいたい」と。セイジは凄くショックを受けて、みどりは戻らないという確信を持つわけです。

■それで刑事たちは、誘拐かどうかはともかく署に来い。お前らふざけてると。署に向かうために、銀座の地下道を上がってゆくんですね。セイジは、先頭をとぼとぼと歩いてゆくんですけど、みどりはたぶんもう戻ってはこないというのが、二人の空気の中で分かっちゃった。すると、セイジは地上に出た瞬間に「うわー」と叫び声をあげて、銀座4丁目の通りを走って行って、そこを歩いていた通りすがりの、見ず知らずのサラリーマンをナイフで刺しちゃうんですね。慌てて刑事たちがセイジをとりおさえて、「なんてことをするんだ。なんで俺たちが、お前に手錠をかけなければいけないんだ」と。結局、パトカーが来て、警官たちがセイジを連行してゆく。

■そこに残された、みどりを連れ去った男の子たち3人とみどりが、呆然と立ち尽くす。そして吉田日出子のみどりが「セイジ、セイジ」と言って、物語が終わってしまうんですよ。

■この作品というのは、昭和42年の作品で、ちょうどジャミラを描いた「故郷は地球」の前後に放送された作品です。そこに、しかもラブソングの「二人の銀座」がバックに流れるんです。この、なんというか取り残されていく、寺田農さん演じるセイジという青年の思い、しかも隠し撮りで撮りますから、全く無関心に通りを横切ってゆく大人たちや若者たちが、物語の主人公を傷つけてゆくわけです。

■まさに「都会の中の孤独」のような形のドラマを、何本も、佐々木さんは今野勉さんと、この「七人の刑事」の中で描いていくわけです。それらは、歌と画面とのリンクというか、不思議な交情を、ひとつのきっかけにして生まれた作品でもあるわけです。

■実は、佐々木守さんという人は、どうしても今、「ウルトラマン」とか「柔道一直線」とか「シルバー仮面」とか「アイアンキング」とか、そういうもので語られてしまうのですが、子ども番組と同時に、ある閃光の

ような青年像～青年の痛みと悲しみと、誰にも理解されない孤独感～を鮮やかに青春ドラマの中に描いて、実績を積んでいった。しかも、あくまでディレクターの今野さんとのコラボレーションで「どういうものにしてしようか」、「これにしようよ」と。まだ日本で訳詩が出ていなかった英語の歌からやろうよといったこともありますし、そういう形で、「ウルトラマン」の実相寺昭雄とのコンビと平行しながら、作品を作っていたんですね。そういう形で、どんどん手応えあるものを作ってゆきました。

■「ウルトラセブン」に入ります。「ウルトラマン」で、佐々木さんと実相寺さんはまさに名コンビで、シリーズの中でも不思議な光を放つ作品になったわけですが、「ウルトラセブン」では、異なる形になった。

■これは、僕は野長瀬三摩地(のながせ・さまじ)さんという、「ウルトラセブン」で「湖の秘密」という製作第1話を監督された方にお聞きしたんですけど、「ウルトラマン」というのは怪獣と戦ったり宇宙人と戦ったり、まあ実相寺さんと佐々木さんのちょっとファンタジーみたいな作品があったりするわけですが、「ウルトラセブン」は、宇宙人との対決が多くなるものですよ。どうしてもワンパターンになるのではないかと。作り手たちも気付いていたんですね。だから「ウルトラセブン」では、ある種パターンを崩してみようよ。

■「ウルトラマン」では、佐々木さんは実相寺さんとはかやってないんですけど、あえて実相寺昭雄さんと、(いつもは円谷一さんとコンビを組んでいる)金城哲夫さんがコンビを組んだのが「狙われた街」で、それと一緒に撮るために作られたのが、佐々木さん脚本・実相寺さん監督の「遊星より愛をこめて」でした。「遊星より愛をこめて」は、幻の12話ですけども、とにかくこの2本がセットとして作られた。

■「遊星より愛をこめて」は、色々事情がありますけれども、佐々木さんの本では非常に珍しい部類に入ります。宇宙人に利用された桜井浩子さんのヒロインの物語です。恋人だと思っていたのが実は宇宙人だった。人間の血液の中にある赤血球を奪うためにやってきた宇宙人なわけですが、まさか自分の恋人が宇宙人だとは思わないわけですから、困惑することになる。それを桜井浩子さんが演じるわけです。

■で、終盤では子どもから、より良い赤血球が取れるということで、弟を連れて行こうとするんですね。それを桜井さんが気付いて、で、目の前でソガ隊員が恋人を撃って宇宙人に変身して、宇宙人だということがはっきりと分かるわけです。

■物語の終わりに、夕陽を見つめながらアンヌ隊員が「これは悪い夢だったのよ。忘れた方がいい」と桜井浩子に話しかけ慰めるんですね。すると桜井浩子が夕陽の中でシルエットになりながら、「私、忘れない。地球人と宇宙人がいつの日か友情を結べる日がくるまで、私、忘れない」といいます。

■その次のカットが、やはりシルエットになったモロボシダンで、夕陽を見つめながら、「そうだ。その日はそんなに遠くない。宇宙人である僕が、一緒に戦っているじゃないか」といいます。夕陽を見つめる3人でこの物語はクローズアップするんです。どちらかという金城哲夫が書きそうな、宇宙人と地球人の友情とは何かというテーマにくさびを打った。

■もう一つは、いつもは藤川桂介さんとコンビを組む、飯島敏宏監督と佐々木さんがコンビを組んだ「勇気ある戦い」です。これは、とても難しい手術を受けなければならない一人の男の子を、モロボシダンが励ますというストレートなお話です。(次号に続く/採録・文責=小西昌幸)